南の光明
The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標
平和は聖なるもの 神のみ旨
絶えざる和解の旅

〒902-0067　那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人　W.F.バーント司教　1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

（1）2026年10月1日（毎月1日発行）　カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ　　第815号（10月号）

今日の日本カトリック教会：課題と希望



ヨアキム ホアイ 神父
カトリック泡瀬教会

現在の日本カトリック教会の姿を見ると、多くの人々が不安を覚えるかもしれません。日本カトリック司教協議会（CBCJ 2024）の統計によると、この 10 年間で信徒数、幼児洗礼数、日本人司祭の数など大幅に減少しています。これに加え、共同体の高齢化や家庭生活の激しい変化という現実にも直面しています。しかし、数字だけに目を奪われてしまうと、神様が静かに進めておられる御業を見落としてしまいます。どのような時代にもそれぞれの試練があり、今はまさに、教会が刷新へと向かって歩み出すよう招かれている時なのかもしれません。

聖霊は常に、福音を告げ知らせるための新しい道を切り開いてくださいます。日本の教会の歴史が証明しているように、最初の殉教者たちの時代、隠れキリシタンの時代、そして明治以降の回復の時代に至るまで、一見すると「終わりの時」と思えるような節目が、実は「信仰の新しい春」の始まりとなってきました。こうして、福音を告げ知らせる使命はいつの時代も守られ、今日へと受け継がれています。

宣教とは単に信徒の数を増やすことだけではありません。まず何よりも、人々がキリストに出会い、神の愛を感じ、人生の意味を見出す手助けをすることです。それゆえ、すべてのキリスト者がこの使命へと招かれています。イエス様の弟子として私たち皆が過ごす時間の多くは社会の中にあります。そこでの温かいもてなし、耳を傾ける姿勢、そして兄弟愛に満ちた生き方などを通して、神様を伝えていくのです。互いに一致し、責任を分かち合い、支え合う各教会共同体は神の国の生き生きとしたしるしとなります。

このような視点に立つとき、私にとって那覇教区は非常に特別な「希望」をもたらしてくれます。 沖縄での 17 年以上にわたる宣教奉仕の中で、私はこの地方文化の中に福音と非常に近い価値観が多く眠っていることに気づきました。この経験は、効果的な宣教の道とはそれぞれの民族の心にすでに蒔かれている「御言葉の種」を見つけ出すことなのだと教えてくれます。その素晴らしい文化の美しさと福音の価値を結びつけることで、福音の種は芽吹き、豊かな実を結ぶようになるのです。

私が特に感銘を受けた価値観の一つに、「ゆいまーる」の精神があります。これは地域社会における相互援助や助け合い、そして共に責任を担う姿勢のことです。ある家庭が困っているときや、地域全体の取り組みがあるとき、誰もが喜んで手を差し伸べます。この精神は、『使徒言行録』に記されている初期キリスト教共同体の姿を思い起こさせます。

「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。・・・・信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、・・・・心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。（使徒言行録 2:42-47）

福音は既存の文化を否定するために来るのではありません。むしろ、それを照らし、清め、完成させるために来ます。「ゆいまーる」の精神がキリストの愛によって照らされ結びつく時、それは深い交わりと宣教の活力に満ちた共同体を築く力となります。これこそが那覇教区が日本の教会全体へ贈ることのできる貴重な「恵みのギフト」なのではないでしょうか。こんにち、宣教の歩みには私たち一人ひとりのさらなる歩み寄りと努力が求められているかもしれません。道のりには多くの困難がありますが、救いの歴史を見つめ直す時、神様はいつも「不可能」と思われるような状況の中で大きな御業を成し遂げてこられました。出エジプトの際、イスラエルの民の姿は私たちに大きな希望を思い出させてくれます。荒れ野の貧しさの中でも、神様は決してご自分の民をお見捨てになりませんでした。モーセが語った言葉の通りです。

「主ご自身があなたに先立って行き、主ご自身があなたと共におられる。主はあなたを見放すことも、見捨てられることもない。恐れてはならない。おののいてはならない。」（申命記 31:8）

私たちの希望は目に見える統計や一時的な成功に基づくものではなく、神様の変わることのない誠実さに置かれています。共に責任を分かち合う時、すべての小教区共同体、そして一人ひとりが福音を広める豊かな器となるのです。

この時にあたり、日本のすべての神の民、とりわけ那覇教区の皆さんが常に希望を失わず、この地方の素晴らしい価値を大切にしながら、愛と奉仕の生き方を通して力強くキリストの証人となっていかれますように。かつて荒れ野でイスラエルの民と共に歩んでくださった主は今も変わらず、教会と共に、そして私たちと共に歩んでおられます。

To See God through the Lens of St. Francis of Assisi

By: Fr. Maxi D' Souza, OFM Cap.



I arrived in Japan in 2006. At that time, conversations on religion were not always welcomed. Religion was considered something that only weak people relied on. I also felt there was a "culture of caution" seen in the way people express their faith.

In Japan, people tend to avoid speaking publicly about matters related to their inner lives. Gradually, however, I came to understand that this was one of the reasons why religion was treated so reservedly. I became interested and explored the reasons behind it. However, after twenty years I realized that many of my earlier assumptions had been based on misunderstandings. Japanese people don't really dislike Religion. Instead, I realized that many people love nature and live their lives with a deep sense of reverence for the divine.

Gradually, as I became familiar with the Japanese way of thinking and modes of expression, I came to appreciate the depth and richness of the Japanese heart.

This year Pope Leo XIV has drawn the world's attention to the 800th anniversary of the death of St. Francis. During this commemorative year, the church served by Franciscan priests has also been given a special role. Throughout this year we have been studying the Spirit of St. Francis. How deeply he loved creation and through creation profoundly he came to know God and meet God in every person.

In this article, I will reflect on the influence of St. Francis on contemporary society, considering how we can imitate his way of life and exploring how his spirit continues to influence the modern world. I will also explore how "Dialogue" can help us to understand the human heart and the richness of religious faith.

Religion and Dialogue:

Religion has an important role in how to share love with the world. Every believer believes that he or she is saved by one's own faith and religion. It's important to share our Christian beliefs in Japanese society, but at the same time it's equally essential to consider and respect the faith of others. Through Interreligious faith and dialogue, we should recognize the good in each other's religion. At the same time, we should share our own faith.

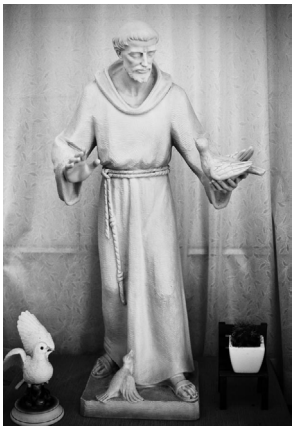
All religions share values of love, forgiveness, reconciliation, and compassion. The Truth can be found in other religions. We shouldn't claim that the truth is found only in our Religion even though there is no salvation found in other religions. But, if we truly wish to realize peace, we should respect the faith and practices of other religions. St. Francis' encounter with the Muslim leader deepened his faith in Christ and the church. They prayed frequently and referred to God by different names. Through their faith in God, Francis himself had a transformation of heart.

The Bible tells the story of the Good Samaritan; a traveler was attacked by robbers and left almost half dead. Neither a priest nor a Levite helped him. However, a Samaritan who was despised and avoided by the Jews of that time did not abandon the wounded man. Jesus asked them who is the true neighbor? The answer was the Samaritan. A true neighbor is one who goes beyond religious and social boundaries and stands beside someone who is suffering. Even if we consider ourselves specially chosen, if we can't act as neighbors to others that "chosen status" loses its meaning.

The faith of the Canaanite woman; A woman who asked Jesus to heal her daughter. At first, Jesus refused her request, but the woman replied, "even the little dogs that eat the crumbs from the master's table". Jesus was deeply moved by the deep faith of this woman and replied "Your faith has saved you ". Here again Jesus expands the boundaries of his own community and recognizes the faith of a foreigner. Salvation is not restricted to one ethnic group or religion.it is open to every heart that sincerely seeks God.

The Message of St Francis for today: these Gospel stories resonate deeply with the spirit that St. Francis demonstrated throughout his life. Francis discovered the image of God even in people who were regarded as enemies. He entered into dialogue with people of different religions and crossed boundaries in search of peace. The teachings of the Gospel and the way of life of St. Francis challenges us even today to go beyond different religions and cultures and understand the importance of becoming a neighbor to people of other religions. To see God in every religion, to cross bou ndaries, to listen to one another. And to become a neighbor to those who suffer. This is the spirit of St. Francis and the modern world needs it more than ever.

アッシジの聖フランシスコ没後 800 年



今年の 1 月 10 日から 2027 年 1 月 10 日まで、聖フランシスコ没後 800 年を記念する特別聖年が実施されています。アッシジのフランシスコはとても有名な聖人であり、その生涯はすでにたくさんの方に知られていますが、10 月 4 日はアッシジの聖フランシスコの祝日にあたり、あらためてここにまとめてみます。

彼は 1181 年アッシジの裕福な家に生まれました。素直で陽気な性格の青年時代は気ままに遊びや夢を追いかけましたが、徐々に強くキリスト教的な精神が育っていきます。アッシジ郊外の崩れかかったサン・ダミアノ教会の十字架から「わたしの家（教会）を建て直しなさい」とはっきりとした声を受け、一人で石を積みながらサン・ダミアノ教会の修復に取りかかります。アッシジの城壁の外にある聖ペトロ教会、ポルツィウンコラ教会の修復も行ったとされますが、放棄され荒廃した教会の修復を通じて、精神的な教会の立て直しをはかっていったのです。

やがて父の遺産や衣服すべてを放棄してキリストに倣って生きることを選びます。フランシスコの生き方に賛同した仲間たちは少しずつ増えていきました。やがてこの小さな仲間たちは「小さき兄弟会」と名乗り、教皇から認可を受け共同生活を営み修道会の礎ができます。フランシスコは 27 歳から仲間たちと宣教活動を行いました。

晩年フランシスコは、すべての存在を賛美し、自然の美しさや恵みを称えて被造物に対する感謝の気持ちを表現した『太陽の賛歌』を作ります。また、現在もカトリック教会に受け継がれている、キリスト降誕の場を再現した馬小屋を置いた最初の降誕ミサを行いました。そして彼はキリストの受難の聖痕を受けました。44 歳で亡くなるまで彼は徹底して清貧と宣教の精神を貫きました。

フランシスコの生涯は、物質的な豊かさを捨て愛と奉仕にすべてを捧げた道のりでした。動物や自然への深い愛情、清貧を貫く生き方、仲間との宣教活動、そのすべてが現在でも世界中の人々に影響を与え続けています。死後２年で聖人となり４年後には壮麗なサン・フランシスコ大聖堂が建立されて遺骸が移され、今も世界中から巡礼者が訪れる祈りの地となっています。

フランシスコの仲間たちは「小さき兄弟会」として大きく育ちます。現在「フランシスコ会」「コンベンツァル聖フランシスコ修道会」「カプチン・フランシスコ修道会」として世界中に活動の場を広げています。

10 月 3 日の聖フランシスコの命日の晩はトランジトゥスと呼ばれ、沖縄の「コンベンツァル聖フランシスコ修道会」「カプチン･フランシスコ修道会」「聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会」の兄弟姉妹たちが集い、地面に敷いた粗末な苦行衣の上にフランシスコが裸で横たわり最後を迎えたと伝えられる場面を模して、床に修道服を敷き、帰天祭の典礼が行われます。翌 10 月 4 日はアッシジの聖フランシスコの天国での誕生を記念した祭日としての典礼を行い、祝います。

10月 一日黙想会へのご案内

指導：浜﨑眞実（開南教会主任司祭）　テ ー マ：**「詩編を通して、森から泉へ…」**

神はわたしを緑の牧場に伏させ　いこいの水辺に伴われる

・日　　時　10月10日（土）
・会　　場　聖クララ修道院（与那原教会）
・受　　付　09：30
・講　　話　10：00～11：00
・休　　憩　11：00～11：15
・個人黙想　11：15～12：15（赦しの秘跡：希望者）
・昼 休 み　12：15～13：00
・分かち合い　13：00～14：30（各4班に分かれて行います）
・掃　　除　14：30～14：50
（会議室と食堂の清掃及び復旧、終わり次第、速やかに聖堂へ移動してください）
・ミ　　サ　15：00～16：00
※持参するもの　聖書・弁当・飲み物・会費500円

問合せ先　098-945-2354　098-945-8649　　聖マリアの汚れなき御心のフランシスコ姉妹会

旧約、詩編、手紙、福音との間で、何を感じ取り、また違った気づきがあるのか、心静かに・・・・

2026年9月　司祭助祭拡大会議報告

開催日時：2026年9月1日（火）10:00~11:00　於・ミッションビーチ

※会議に先立ち追悼ミサが行われ、帰天された浜﨑神父のお母様、フィリピン宣教会のハミルトン（通称・ハム）神父のため祈りが捧げられた。

1. 報告及び連絡事項

司教、司祭の会議、研修、休暇等の予定

ウェイン司教（9/7）いのち・平和・人権委員会（東京）、（9/29～10/1）臨時司教総会（東京）

ピーター・チェ神父（9/1～18）休暇、ベトナム。

マイケル神父（9/3～9）全国典礼担当者会議、軽井沢。

※司祭の不在に関して司教から要請：不在予定を信徒に連絡し信徒との信頼関係を損なわないようにする。また台風接近は緊急時であり、小教区の建物・敷地の安全確認、対策を行う。

サマーキャンプについて：

担当司祭のブイ神父から報告

・小学生36人、中高生22人、ヘルパー25人の参加があり、また次年度への繰り越しができた収支であった。

・参加者がいなかった小教区もあり、同じ世代の信仰の仲間と繋がっていくことの重要性の理解と取組みが課題である。

他の司祭から報告と提案

・大西神父の講話が分かり易かった。

・次年度以降への要望

〇海水浴の時間が干潮と重ならないように配慮する

〇来年は7月30日から旧盆に入るので日程に気を付ける

〇小学生のキャンプではヘルパーが少ないと感じたのでヘルパーの配置に注意する。

ウェイン司教から感謝

台風で一部延期されたにもかかわらず、無事に開催したスタッフ一同へ感謝する。

マイケル神父から報告

教区司祭となることを希望している青年がヘルパーとして参加、同青年が来年度から那覇教区内の小教区で生活をともにしながら神学校への入学準備を進めていく予定である。教区司祭養成の準備期間への司祭団の積極的な協力が依頼された。

10月からビザ取得に関する法改正があり、ビザの更新に支障がないよう外国籍の司祭たちへ在留期間等への注意喚起があった。永住ビザ取得者は在留カードの更新に注意する。また、在留許可更新の申請手数料の負担増について教区は配慮を行う。

クルシリオ等のグループ活動はカトリック信仰の一部分であるため、事前に活動内容を司教と協議し、許可を得て正しく活動されるよう要請された。

⑤9月1日の「被造物を大切にする世界祈願日」（日本では9月6日）に合わせて、教皇メッセージ「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」（イザヤ2・4）を各小教区に掲示するよう要請された。

2. 審議事項

①三教区合同黙想会について：ウェイン司教、ボスコ神父、マイケル神父、津波古事務局長より準備状況の報告。講話担当は酒井司教。黙想会のスケジュールが提示され4泊5日の日程が了承された。

②WYDソウル大会への取り組み報告（ウェイン司教、青少年担当ブイ神父、WYD担当マーシーさん）。

参加者４名（現時点）、同伴者２名予定だが、未確定。今秋～来春正式申込受付。那覇教区予定は8/6～8/9週末のみ参加。10/2の説明会に参加する。参加青年は引き続き検討中。

③有馬神父の命日は10/29㈭であるが、平日のため駐車場確保が困難であり、三回忌追悼式は11/3㈫の11:00から安里教会で行う。

司教予定：10/4小禄教会公式訪問、10/11読谷教会 GFCフィリピン共同体の集い、10/14～15長崎教会管区会議（長崎）、10/15～16いのち・平和・人権委員会（東京）、10/18首里教会公式訪問、10/25カリタス沖縄チャリティコンサート（安里教会）

読谷教会より9月27日に行われる保護の聖人のお祭りへの参加が呼び掛けられた。

事務局から、車の保険の振込を促すために、該当する司祭へ請求書が渡された。

承認：ウェイン・フランシス・バーント司教　　記録：新田 選

****

司祭会議終了後、10月の拡大司祭・助祭会議の前に、帰天されたフランシス神父のお母様のため追悼ミサを行うことが決定された。

教区 NEWS 教会

「2026年　沖縄サダナ黙想会を終えて」　真栄原教会　伊佐悦子

昨日、前半・後半を合わせた3泊4日のサダナを終えました。サダナを知り、今年で10年目となります。今回の体験を一言で表すなら、「魂の筋トレ」であり、「魂の温泉浴」を終えたようなすがすがしい気分です。

一夜明けた今朝、再び日常が始まりましたが、これまでとは何かが違います。暮らしのそこかしこにイエス様の存在を感じ、自ずと短い祈りが湧き出てくるのです。まさにサダナの恵みだと実感しています。もちろん、この感覚も半年ほど経つと薄れてしまうことがあります。筋トレも一度きりでは元に戻ってしまうのと同様です。しかし、サダナによる歩みは決して無駄にはなりません。「三歩進んで二歩下がる」ように見えても、確実に一歩前進しています。1年では気づきにくい変化も、10年という節目を迎えた今、確かに進んでいるのだと深く気づかされました。

サダナの魅力は、プログラムの内容にとどまりません。

第１に、初対面の人とも次第に兄弟姉妹のような親しさを感じ合えることです。サマーキャンプで絆を育む子どもたちのような純粋な繋がりが生まれます。

第２に、世間やテレビ・スマートフォンから離れることで得られる解放感です。

第3に、祈りの家（与那原・聖クララ修道院）の味わい深さです。かつて修道志願者が使われていた個室、広い回廊、レトロなシャワー室など、昭和の温もりを残す空間が心地よく感じられます。

第４に、マリナーズカフェから届く美味しい3食のデリバリーです。そして何より最大の魅力は、指導してくださるイエズス会の植栗神父様（82歳）のお姿です。小柄でお痩せになったお体でありながら、札幌から沖縄まで全国各地を巡り、サダナの指導を続けておられます。「毎朝目覚めるとワクワクする」とおっしゃりながら、毎年この過密日程をこなされるお姿は、まさに聖霊に促されて宣教に向かう使徒そのものです。サダナの詳しい歴史や各地の紹介、また沖縄からの5名の手記などは、今年発刊された『響きの奥へ　サダナ日本渡来五十周年』に詳しく掲載されています。



今年は、Zoomを使える環境を整えることに挑戦したいと考えています。全国のサダナ仲間とつながりを持ち、共に信仰と祈りを深めていくことが目標です。70歳を目前に控え、臆することなく新しい世界へと一歩を踏み出してまいります。

すべては主と共に、主のうちに。神に感謝いたします。

「勉強会始めました」　安里教会　平良道子

信徒の熱い願いを主任司祭ブイ神父様が快く引き受けてくださり、安里教会の勉強会が毎週水曜日にスタートして、早いもので1年を超えました。スタート時は日曜日の典礼の中から議題を取り上げたり、神父様からテーマをもらったりして分かち合っていましたが、その後聖書の勉強が始まりました。聖書を使って読み合わせ、神父様から説明を聞いたり神学的な解説を聞いたりして、参加者それぞれが理解を深めています。時には勉強の中に出てきた内容で感じたことや、心に浮かんだことを分かち合います。旧約聖書の預言者の個所を深めた後、現在は創世記へ戻って天地創造から読み進めています。時にはその週に記念日を迎えた聖人の話や、勉強の合間に神父様のふるさとベトナムの話、神学校の話などを聞きます。「ベトナムツアーを企画しましょう」とテンションも上がり、楽しい1時間となっています。

「信仰とは何ですか」「十字架を見上げる時、何を見ていますか」「苦しみの中にいる時、どうしていますか」「どんな時、神様の存在を知りますか」など、時々深い質問に答えるために考え込むことがありますが、分かち合いにより、いろいろな考えや体験談を知ることもできます。先月は「ヘビはなぜ先にエバを誘惑したのか？」「罪とは何？」でした。

6月までは勉強会の後に、各自が持参した白飯と宇根さんお手製の温かい料理を神父様と一緒においしくいただいていましたが、暑くなってきたため、衛生面や負担軽減を考慮して月の最終水曜日以外は茶話会を楽しみ、最終日は以前のように軽食ランチと雑談を楽しんでいます。



9月から洗礼前の若い女性が参加するようになり、先輩信徒の方々は孫のようにあたたかく見守りながら、一緒に学んでいます。いつからでも誰でも自由に参加できる勉強会なので、もっと安里教会の参加者が増えることを期待しています。参加者それぞれが異なる人生を歩み、異なる問題を抱えていますが、この実り大きな勉強会で、各自が信仰を育て、守り、生活に活かして進んでいけるようになれればよいと思います。

いろいろな問題を抱えて参加している私たちをあたたかく見守り、やさしく教え導いてくださるブイ神父様、本当にありがとうございます。これからもよろしくご指導ください。



今年は聖フランシスコ帰天 800周年を記念して「平和への祈り」をテーマに選びました。今回は昨年の参加グループと特別にカプチン会、サマーキャンプユースが加わりました。このチャリティーコンサートの寄付金の使用目的は二つです。「ネパール土石流救援募金」とカリタス沖縄の活動として使わせていただくことになります。

是非皆さんの足を運んで平和を願いながら歌で伝えましょう。

カリタス沖縄一同

On October 25, from 2:00 to 4:00PM, a charity concert organized by Caritas Okinawa will be held at the Asato Catholic Church.

This year, to commemorate the 800th anniversary of the passing of Saint Francis, we have chosen "A Prayer for Peace" as our theme. In addition to the groups who participated last year, we are pleased to welcome the Capuchin Order and the Summer Camp Youth Group as new participants. Proceeds from this charity concert will support two causes: Relief efforts for the the Nepal landslide and the ongoing activities of Caritas Okinawa.

Caritas Okinawa Members/ Volunteers

2026年度

那覇教区女性の会



家庭の日ミサのご案内

日時：10月17日(土) 午後2時

場所：カトリック安里教会

安里教会夕涼み会

2026年10月11日㈯ 午後6時～

ゲームや盆踊り、手持ち花火大会があります。ゲームに参加して賞品をゲット！食品や飲み物でおなかを満たして楽しく過ごしましょう！！希望者には、帰り道をお送りする車をご用意します。楽しさてんこ盛りです！



Book 営業時間変更のお知らせ

いつも文化センターをご利用いただきありがとうございます。
下記の日程で出張販売を致しますので営業時間が変更となりますので、ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

10月11日
11月 1日
11月 8日
11月15日の日曜日は午後2時からの営業となります。

10月

日	月	火	水	木	金	土
⑪	12 スポーツの日	13	14	15	16	17

11月

日	月	火	水	木	金	土
①	2	3 文化の日	4	5	6	7
⑧	9	10	11	12	13	14
⑮	16	17	18	19	20	21

◉キリスト教関係の書籍、宗教用品等のご用命は、「カトリック文化センター」を通してご注文下さるようお待ちしております。
〒900-0005 那覇市天久 1-8-7　電話・Fax 098-868-4649

～ご遺族の心をもって奉仕する～

葬　典　社（そうてんしゃ）

＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。

「ゆうなの会」会員募集中です。

（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）

24時間受付



☎098-853-1059（てんごく）